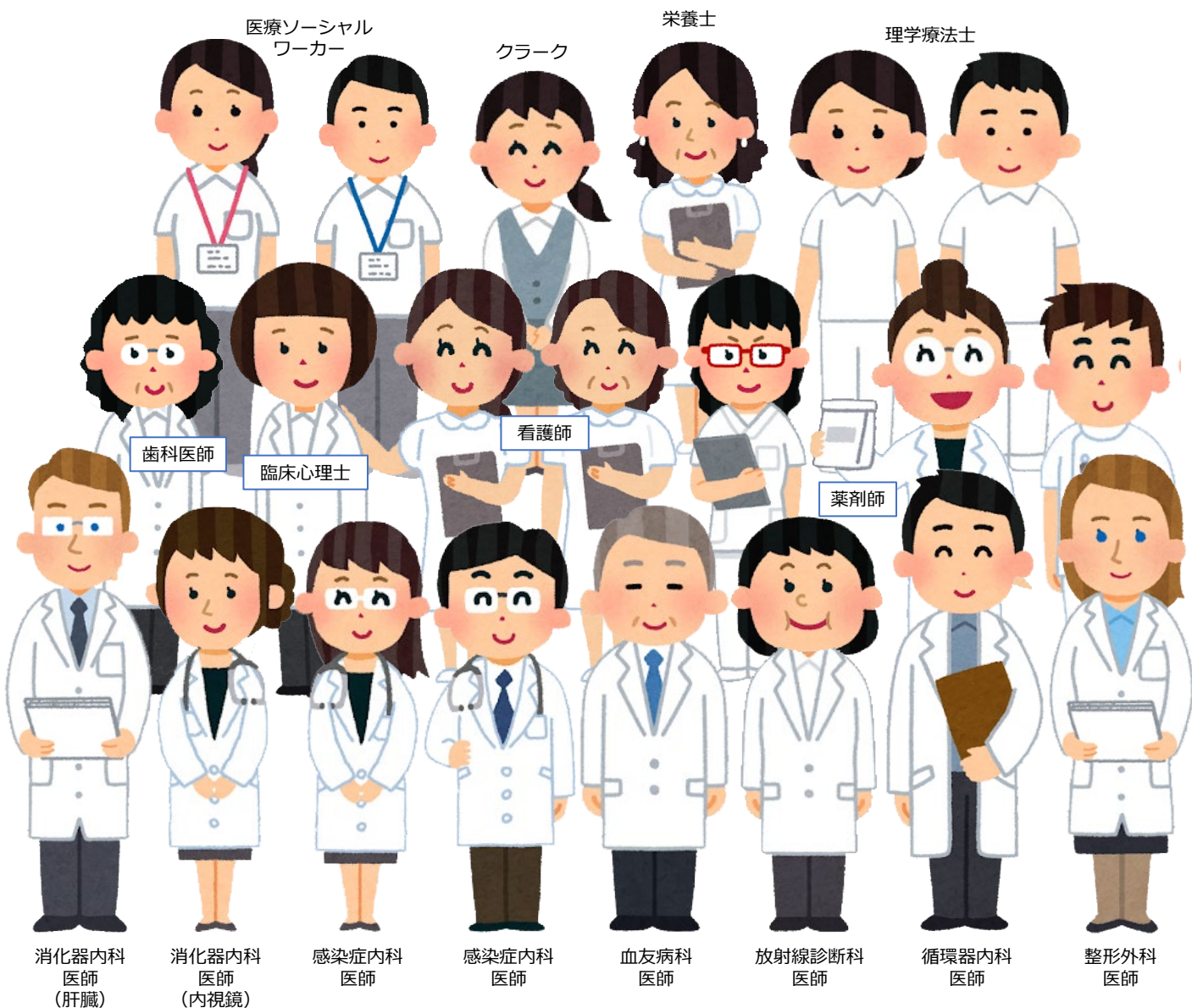


非加熱血液凝固因子製剤による薬害患者さんを

対象とした総合的健康把握事業のご案内



非加熱血液凝固因子製剤によるヒト免疫不全ウイルス（Human Immunodeficiency Virus : HIV）の感染が明らかになってから40年余りがたちました。感染された方の年齢があがるに従い、「がん」や「生活習慣病」への対策が課題となってきました。

国立病院機構大阪医療センターでは、通院中の薬害患者さんの総合的な健康把握につとめてきましたが、この度全国の薬害患者さんに「総合的健康把握事業」を受診いただける体制を整えましたので、ご案内いたします。

関係するすべての診療科、専門の薬剤師・看護師、臨床心理士から栄養士と、多職種が一つのチームとして、皆さんの健康状態を診てまいります。内容をお読みになって、受診を希望される場合、遠慮なくご連絡ください。

申し込みから 入院まで

非加熱製剤によるHIV感染薬害患者さんで、大阪医療センターでの健診を希望される方へ

まずは大阪医療センターにお電話いただき、交換手からHIV地域医療支援室の東(ひがし)看護師か、医療ソーシャルワーカーの岡本につないでもらってください。

電話番号：06-6942-1331（土・日・祝祭日・年末年始を除く 9:00～16:00）

※ 交通費に関しては、特定非営利活動法人 ネットワーク医療と人権<MARS>が相談にのっていただけます。



日本全国からの申し込みを受け付けますが、各ブロックでは拠点病院が同様の取り組みを企画しています。健診は継続することが大切です。

最寄りの拠点病院での健診もご検討ください。

申し込みが終わりましたら、患者さんとリモートか、お電話で打ち合わせをいたします。（パソコンか、スマートフォンがあれば、リモートで面談可能です。）

・ 健診の日程を調整します。

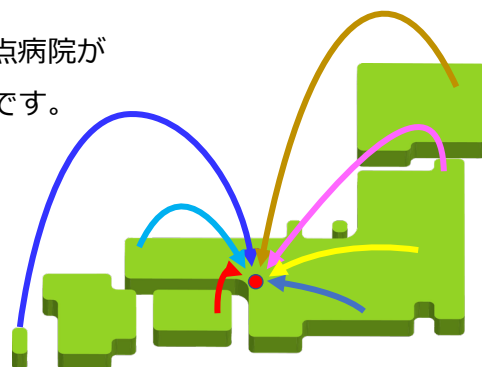
本健診は事業としての位置づけです。費用に関しては心配なさらず、まずご連絡ください。

・ 現在の診療状況（服薬内容、血友病の治療など）を確認します。

・ かかりつけ医とは密に連携をとり、ご説明いたします。かかりつけ医の通常診療以外の健康診断を担当させていただき、健診結果をかかりつけ医にご報告いたします。

・ 健診では上部消化管内視鏡検査、大腸内視鏡を予定していますが、直近で施行されておられるようなら、今回は施行しません。

・ 困っておられること、悩んでおられることがありましたら、事前に医療ソーシャルワーカーや臨床心理士が個別でリモート面談いたしますので、ご遠慮なく申し出てください。



患者さん



大阪医療センター



入院3日目（火曜日）

肝健診



腹部エコー検査

薬害の患者さんはC型肝炎ウイルスにも感染されていたことが多く、肝がん発症のリスクが高いため、腹部エコー検査を行います。肝臓専門医が造影CTも必要と判断した場合は翌日に肝ダイナミックCTを撮影します。



CT検査

血友病科、循環器内科の診察

国立病院機構大阪医療センターは日本で唯一、血友病科があります。専門医の診察を受ける絶好の機会です。また、動脈硬化など生活習慣病が潜在的に進行している可能性もあります。循環器内科専門医の診察を受けて、必要な検査があれば、可能な限り入院期間内に調整いたします。
※ 入院3日目以外の日に、受診いただくかもしれません。



入院4日目（水曜日）

追加の診察、検査があるかもしれませんが、なければ退院日となります。お疲れ様でした。結果は退院までに、ご説明します。一部、結果の判明に時間がかかるものは、後日ご自宅に郵送いたします。かかりつけの先生にも報告書を郵送いたします。

本事業は、国立病院機構大阪医療センターとしての責務だけでなく、厚生労働行政推進調査事業費（エイズ対策政策研究事業）非加熱血液製剤によるHIV感染血友病等患者に合併する腫瘍への包括的対策に関する研究（研究代表者、四柳宏東京大学教授）の一環としても実施しています。同研究班は、情報サイトを立ち上げていますので、ご参考にしてください。

<https://square.umin.ac.jp/kenko/>

2023年1月からの運用をめざしていますが、最初は試行錯誤しながらと思いますし、新型コロナウイルス感染症の拡大に左右される可能性もあります。この点、ご了解ください。